

人と自然とのかかわりを通し

子どもが「生きる力」を発揮する学習活動の創造

<1年次>

いのち・環境教育ブロック

6年2組 授業者 鈴木伸治先生

単元名…みんなに優しい町を考えよう

国語科「みんなで生きる町」

(1)自評

- ・ ビオトープを活用したかったが、様々な行事が多い中、日々の授業(各教科)の中に、素材を見出した。幸い、国語の単元の中に、あった。
- ・ 国語の力をつければ、(研究に)つながっていく。
- ・ この単元は最終的に、意見文を書くことがねらわれている。よって、今日の段階のまとめが、頭の中に残っていればよいと思った。このまとめを1組の人から聞いてもらう。
- ・ つけたい力の明確化を実践してみた。実際、一人ひとりに書かせて見ると、「ここでその力を伸ばしてあげよう」と分かる。だが、それを何で見取っていくかが難しい。
- ・ 振り返りも大事にしようと思った。が、友達のよい意見を拾うことは難しいようだった。
- ・ (まとめの見通しを立てる前に)すぐ書き始めた班が多かった。が、「まず、やってみよう」でいいとおもう。(進め方に)失敗して、その次、～しようと考えているという学び方を大事にしている。

(2)話し合い

- ・ 質問 「こんな力を伸ばしたい」を子どもたちに書かせるときに、視点を子どもたちに与えたか。
- ・ 教科書を一読した後、「自分がこの勉強でどんな力をつけたいか。」と問いかけた。子どもが書いたのを見ると、教科書のねらいを意識していたり、日頃、教師から注意されていることをもとに考えたりしていると感じた。
- ・ 一人ひとりにめあてをもたせることは、素晴らしい。教師が思っていることを子どもの目当てにしていた。
- ・ めあてを持たせたのは良いが、それに対しての教師の手立てが少ないように思う。
- ・ 何で見取るかも難しい。
- ・ 教師がこの単元でのつけたい力を一律に押し付けていくのではなく、子ども一人ひとりの違いを意識して、学習に当たる意義は大きい。
- ・ つぶやきがたくさんあった。
- ・ 相談するとき、すぐ意見が出てきていた。言いたいことをそれぞれがちゃんと持っている。

- ・ グループは、仲のよい人が集まった（自然に）。
- ・ 本時の目標では、（グループでの活動に入ったとき）話し合いとまとめ方のどちらに重点を置いたのか。
- ・ グループそれぞれで異なると考えた。
- ・ 学び方が分かっている子どもたちは話し合いを中心にしていて、しかし、そうでない子どもは「先ず書こう」という感じだった。
- ・ 本時では、全員を見取ることが不可能なので、指導案に明示してあったように、～さんを重点的に見るという点がよかった。

*その他

- ・ フラワークラブの方の提案があった・・・ピオトープ活用として
「花を中心とした総合」はどうだろう。それに関してなら、フラワークラブも手伝いできる。フラワーフェスティバルをするとか。

<鈴木先生の授業から見えてきたこと>

- 1 鈴木先生は研究の視点をしっかり実践しようとなさる。その姿勢に学びたい。
- 2 今まで、手をつけずにきてしまった分野に挑戦し、目に見える形で示してくれる。
- 3 子どもたちがどんなとき（その学習形態や内容）、生き生きと学ぶかを常に見ようとしている。
- 4 1時間の授業というよりは、一つの単元としての授業提案であった。
- 5 2学期の重点として、つけたい力の明確化を提案した。私は教師自身がつけたい力をより意識して授業に当たるといように考えていたが、鈴木先生はそれを直接、子どもたちにおろした。この点がおもしろかった。なんとなく、単元の内容をこなしていくより、一人ひとりが自分の目標を持って取り組む意義は大きい。さらに、「一人ひとりががんばりたい部分が違う」と教師が感じながら、子どもに接する意義も大きいと思う。
- 6 振り返ることも大事にし、カードを用意していた。
- 7 「まずやってみよう」という展開は、生きる力の育成につながると思う。私はこどもがつまづくだろうことを予測し、余計なプリントなどを用意してしまう。そうではなく、先ず実行し、そうしてみたら、「そうか。いきなり書き始めないで、設計図のようなものを考えてから書いたほうがよかったのだな。」と自分で気付くということが大事である。
生きた評価ともなる。